

授 業 科 目 名	子どもの音楽活動	教 員 名	佐々木 由喜子	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		こども音楽療育士	必修
科 目 番 号	KY0206	配当年次	2年後期	卒業要件	小幼コース	必修
単 位 数	1単位				幼保コース	必修
科 目	大学が独自に設定する科目（幼稚園及び小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分又は 事 項 等						
一 般 目 標	学級現場や保育現場における、音楽活動の展開に必要な基礎技術の習得を図る。音楽の生活化を目指すし、豊かな情操を養う事を目標とする。幅広い楽曲を体験し、音楽活動の実施方法を明確にする。					
到 達 目 標	(1) 腹式呼吸を意識した発声の技術を学び、母音、子音などの発音の表現技術を習得する。 (2) 音楽の表現に必要な音楽の基礎知識を、身体表現を伴って習得する。 (3) 音程、音量、音質を意識しながら、音や音楽を奏でることができるようにする。 (4) 合唱や合奏を通して、美しいハーモニーやアンサンブルの楽しさを経験する。					
授 業 の 概 要	幼児期から児童の音楽活動は、子どもの豊かな情操と音楽的感性を育て、その体験は子どもの人間形成に大きな影響を与える。本授業では主に、「学芸的行事〔音楽集会、今月の歌…など〕」「儀式的行事〔入学式、卒業式…など〕」を視野に基本的な知識や技能を身につける。具体的には、グループ演習のアクティブ・ラーニングにより、実践的学習を行う。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「7. 教育実践力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション 教育現場の行事で取り扱われる楽曲を考え、本授業の演習の到達目標を確認する。拍やリズム、音楽のフレーズの大切さを考えながら歌えるようにする。（目標(1)） 第2回：楽曲の歌詞や雰囲気を通して作曲家の表現したいものを理解する。リズムや旋律の特徴を理解し、曲想を大切にしながら一人ひとりが表情豊かに歌えるようにする。（目標(1),(2)） 第3回：集会などで取り扱われる「にじ」の2部合唱を通して、テンポやブレス、強弱記号などの音楽記号の表現方法を理解して演奏や指揮ができるようにする。（目標(1),(2),(3)） 第4回：集会などで取り扱われる2部合唱などの楽曲を通して、様々な音楽の表現方法を理解し演奏できるようにする。（目標(1),(2),(3)） 第5回：月の歌で取り扱われる楽曲の歌詞を大切に歌い、リズム感、フレーズ感、休符、などをていねいに扱いテンポ感をもって歌えるようにする。（目標(1),(2),(3)） 第6回：グループで楽器のアンサンブルに取り組み発表しあう。（目標(2),(3),(4)） 第7回：グループで楽器のアンサンブルに取り組み、表情豊かにリズム感のある表現ができるようにする。（目標(2),(3),(4)） 第8回：行事の曲を明るく表現豊かに歌い、身体表現などを取り入れ、リズム感のある表現をできるようにする。（目標(1),(4)） 第9回：季節感のある月の歌で取り扱われる楽曲を丁寧に歌い、クレッシェンド、デクレッシェンドなどや、スラー、スタカートなどの記号に気をつけ美しく歌えるようにする。（目標(1),(2),(3)） 第10回：季節の歌の詩の表す情景を想像しながら、ふさわしい速度やフェルマータの長さ気に気をつけて歌い、リズムと旋律を大切に、言葉を丁寧に歌えるようにする。（目標(2),(3),(4)） 第11回：代用的な月の歌をマーチ風に楽しく2部合唱で歌う。同時に指揮を振ることを通して、出だしやリズムを大切にしながら歌えるようにする。（目標(4)） 第12回：代表的な集会の歌の歌詞を味わいながら、作曲者の表現したいものが聴き手に伝わるように歌えるようにする。16分音符などの細かなリズムなどに注意し歌えるようにする。 （目標（1）(3),(4)）					

	第13回：行事や集会の代表的な歌の歌詞を味わいながら、作曲者の表現したいものが聴き手に伝わるように歌えるようにする。フレーズ感を大切に、メッセージが感じ取れるようにする。 (目標(2), (3), (4)) 第14回：代表的な卒業式の歌の歌詞を丁寧に歌い、各パートのバランスに気をつけ、心情を込めて歌えるようにする。(目標(2), (3), (4)) 第15回：まとめー代表的な卒業式の歌の歌詞を丁寧に歌い、2部合唱のバランスに気を付けながら、ピアノからフォルテの大きな音量の幅をもって感動的に美しく歌えるようにする。 (目標(2), (3), (4)) 定期試験：個人発表を行う。
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験20%・グループ発表40%・音楽表現の個人発表20%・課題レポート等20%により評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。) 事前学習：シラバスで授業内容を確認し歌っておく。 事後学習：授業の復習と伴奏の練習をする。
テ キ ス ト	授業内配布資料 『こどもの歌ベストテン』（ドレミ音譜出版社） 『幼児のための音楽教育 改訂』（教育芸術社） 『教員養成課程小学校音楽教育法 新版』（教育芸術社）
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省）
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	動きやすい服装で参加すること リコーダーを持参すること
オフィスアワー	授業以外の空時間に実施（メール等でアポイントを取ること。）
備 考	